

令和3年度  
文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業—

劇団風の子 児童劇公演



↑ 体育館をいっぱいを使った舞台 劇中劇「熊と弓」より



知っていますか？～10月1日は「国際音楽の日」です～  
1977年にユネスコの要請で設立された国際音楽評議会という会議で、翌年の1978年から毎年10月1日を、世界の人々が音楽を通じてお互いに仲良くなり交流を深めていくために「国際音楽の日」とすることにしました。  
日本では、1994年から毎年10月1日を「国際音楽の日」と定めています。

劇団風の子について  
劇団風の子は、第2次世界大戦が終わったすぐの1950年に、子どもたちのための専門劇団になるうと創立しました。  
それからもう71年になりますが、ずっと日本中の学校をまわったり、世界のいろいろな国の子どもたちに劇をみてもらってきました。  
劇をしながら、世界が平和になることや、子どものみなさんが、自分の目で物事を見、自分の頭で考え、自由に未来にはばたいていってくれることを願っています。

「文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業—」  
我が国の一流の文化芸術団体が、小学校・中学校等において公演し、子供たちが優れた舞台芸術を鑑賞する機会を得ることにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としています。  
事前のワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演では、できるだけ子供たちにも参加してもらいます。





■劇をつくった人  
 作・脚本 田中つとむ  
 演出 中島研  
 音楽 曲尾友克  
 美術 浅野井優子  
 制作 劇団風の子大道具  
 プロジェクトチーム  
 大森靖枝

■出演者  
 島ちゃん 川島夏  
 たつあん 大堀島  
 ・ますだ屋 松田琢也  
 五郎ちゃん 高村映也  
 ブーヤン (ダブルキャスト) 井部直人  
 宮澤直人  
 高村映也  
 齊藤 (ダブルキャスト) 藤原とみ  
 安田・DJ 中瀬かほ

**あらすじ**

小学四年生の男子四人と女子がひとり、そんな五人の物語。自分たちがつくったひみつ基地がマンシヨンの建設のため壊された。「くそっ!」  
 皆、走って走って走って…、着いたところは橋の下。  
 「新しいひみつ基地をつくるまでは、ここを集まる場所しよう!」  
 今度の学年お楽しみ会の出し物に、自分たちのやりたいことをやろうと言いだしたものの、歌は無理だし、ダンスはもつと無理。  
 「じゃ、劇やらない?」「えー!」と劇に決まる。  
 テキスト「小学校劇の本」を読みながら、齊藤は、ますだ屋のおぼさんから借りた本「熊と弓」を台本にして、五郎ちゃん、たつあん、ブーヤン、島ちゃん、そして女神の役をクラスの人気者安田さんに頼むことになり、六人での劇の練習が始まった。しかし、いろんな困難が押しよせてくる。さあ、六人はこの大きな壁を乗り越えることができるのでしょうか…。

**作者から皆さんへ**

(上演にあたって)

「生きるのって楽しい!」  
 ぼくは生まれてからこれまで、おとうさん、おかあさん、おじいちゃん、おばあちゃん、たくさんのお友達、近所のおじさん、おばさん、いろんな人に支えられて、六十歳を過ぎることができました。そして今はお芝居をしながら、楽しくて楽しくてしかたのない毎日を送っています。  
 子どものころは自分が嫌いで、友だちがうらやましくて、ときどき生きていくのがつらいと思うこともありました。  
 今、悩んで苦しい気持ちになれている人もいるかもしれない。そんな人がこのお芝居をみて、「生きるのって楽しい!」と感じ、少し元気になってもらえたら、ぼくは幸せです。